

# 石狩弁天社の笏谷石製狛犬

A pair of guardian dogs made of Shakudani stone  
at Ishikari Benten Shrine, Hokkaido, Japan

木戸 奈央子\*

Naoko KIDO\*

## 要 旨

石狩弁天社にある一对の笏谷石製狛犬についてその詳細報告と考察を行った。たてがみや体躯の特徴と、形態が類似している他地域の笏谷石製狛犬の紀年銘等から、本資料は18世紀代のものと考えられる。

**キーワード**：狛犬，笏谷石，石造物，近世

## はじめに

北海道石狩市弁天町の石狩弁天社には一对の笏谷石製狛犬がある。石狩弁天社は江戸時代中期に建てられた道内でも歴史のある神社である。この狛犬はこれまでも『石狩辨天社史』（田中・石橋編，1994）等で関係奉納遺物として紹介されてきたが、本稿では写真や実測図等の詳細を報告し、若干の考察を加える。

## 石狩弁天社の概要

石狩弁天社は石狩川左岸の河口に近い石狩市弁天町18番地にある（図1）。元禄7（1694）年に石狩川秋味上乘役を命ぜられた松前藩士山下伴右衛門によって創始された（田中・石橋編，1994）。その後石狩十三場所の一括請負となった村山傳兵衛（直之）が、文化13（1816）年に弁天社を再興し、その後も村山家の守護神として祀られてきた。所在地は当初石狩川河口だったが、文化12（1815）年に現在石狩八幡神社のある川上へ遷宮した。その後明治7（1874）年に当時石狩川右岸にあった石狩八幡神社を左岸の弁天社地内へ遷した際、開拓使より弁天社は村山家の内神とみ



図1. 石狩弁天社位置図（国土地理院2万5千分の1地形図に加筆）。

なされ、境内より出されることとなり、村山家の所有地であった現在地に移築された。

弁天社は創始された江戸時代から、場所請負人や交易によって石狩を往来した人々などに信仰され、現在でも漁業関係者から信仰の厚い社である。また、祭神として巖島大明神や稲荷大明神の他に、アイヌと和人双方の信仰が反映されたと考えられる妙亀法鮫大明神が祀られている。このような歴史的、信仰的特色とその重要性から、昭和42（1967）年に石狩町（当時）指定文化財第1号に指定されている。

\* いしかり砂丘の風資料館 〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

## 笏谷石製狛犬の特徴

狛犬とは、神社の社頭や社殿の前に据え置かれる一對の獅子に似た獣の像（新村，1998）で、魔よけとされており、口を開いた「阿像」と口を閉じた「吽像」がある。形態や石材、産地ごとに多種多様の狛犬があるが、はっきりとした分類は定まっていない。

笏谷石は福井県福井市足羽山周辺で採掘された淡緑青色ないし灰紫色を呈する火山礫凝灰岩で、色合いが良く、軟らかく、きめ細かい石質が特徴である（三井，2002）。道内では松前藩歴代藩主の石廟に使用されるなど、北前船の交易によって流通していたことが分かっている。

笏谷石製狛犬の形態については、紀年銘のある狛犬において変遷が取り上げられている（長坂，1988；水澤，2008）ほか、体軀やたてがみによる詳細な分類も行なわれている（三井，2012）。高さは10cm弱の小型から1mに近い大型のものまであり、形態はおかっぱのたてがみ（禿）や前足後ろの巻毛、尾の形などが特徴である。たてがみは16世紀初期に三段の房状で先端が巻毛になっているものが、次第に簡略化され、直線状の房状に変わる。16世紀末から17世紀初めにかけて毛筋彫のものが現われ、17世紀代の主流となる。18世紀の初めには毛筋彫に加えて、先端部を巻くものや前方へ湾曲するものが現われる。19世紀には毛筋を細かく表現するものや、近代的な巻毛を表現するものなど細やかな表現が見られる。前足後ろの巻毛は二段あったものが一段となり、16世紀末以降は巻毛を施さない簡素なものも見られる。尾の形は三条の山型になった毛房が基本で、巻きを伴う場合もあるが、17世紀前期には一房の太い尾が主流となる。

## 資料について

本資料は総高が阿像24.6cm、吽像25.1cmで、石狩弁天社の拝殿にある（表1，図2，図3）。たてがみは毛筋彫で前方へ湾曲して彫り込

まれ、尾は太い一房で、前足後ろの巻毛はなく、前足上部に施毛のような彫りがある。瞳は墨で黒く塗られ、吽像にはひげにも黒い彩色が見られた。その他、阿吽像ともにたてがみに彩色の痕が確認出来た。『石狩辨天社史』（田中・石橋編，1994）において、胴体や口、目などに金・銀・赤の彩色があると記されているが、確認は出来なかった。今後、蛍光X線撮影等による更なる分析が必要である。

また、阿吽像ともに墨書の文字があり、阿像は胴部から右前足にかけて、吽像は胴部に書かれている（図5）。阿吽像ともに「庄内酒田柏屋久左衛門舟中上乃り九兵衛天党船」と書かれており、庄内酒田（現在の山形県酒田市）の柏屋久左衛門の舟（天党船）に乗る九兵衛が奉納に関わっていることが分かる。

形態や装飾以外の特徴として、阿吽像ともに頭部と尾の先端部が擦れて白くなっており、撫でられた痕に見える。人が撫でた痕だとすると、現在のような拝殿にあっては簡単に人が触れることは出来ないため、人々の手に届くような環境に置かれていた時期があると考えられる。また、頭と尾の特定の場所だけが撫でられるということは、本資料に何らかの「いわれ」があったのではないかと考えられるが、その詳細は不明である。

## まとめ

本資料には奉納や造立に関する年月日が記されていないため、はっきりとした年代は不明だが、本資料に類似した形態の笏谷石製狛犬は福井県福井市や敦賀市、越前市、京都府舞鶴市、福知山市で確認されているほか、新潟県佐渡市でも堂内に安置されているものが10対程確認されている（水澤，2008）。また、福知山市と佐渡市のものを除いて紀年銘があり、全て18世紀代であった。また、佐渡市の狛犬に関しては1700年前後以降に搬入のピークを迎えるという見解がされている（水澤，2008）。あわせて形態の変遷を踏まえると、本資料は18世紀代のものと考えられる。

現在、道内の近世石造物について詳細な悉皆調査が行われ、狛犬を含む石造物の所在や年代、産地などが明らかとなってきた（関根，2013）。笏谷石のように石材の産地が分かるものや、刻まれた文字によって奉納者やその出身、年代が分かるような石造物は、当時の物や人の流れを追う手がかりとなる。加えて寺社奉納物は、本来和人の信仰を示すものであり、蝦夷地におけるこれらの存在は、和人の文化や経済が流入したことを表している。

石狩市における近世の笏谷石製石造物は、新町の金龍寺にある安永3（1774）年に奉納された手水鉢のほかに、浜益区の浜益神社にも本資料と同じタイプと思われる笏谷石製狛犬が確認されているが、風化が激しく詳細は不明である（石橋，2006）。

狛犬のように外で風雨に晒される石造物は時間とともに風化していくことがほとんどである。また、堂内に安置される狛犬については普段目にすることが少ないため、その所在が明らかになっていないものも数多くあると考えられる。今後歴史的・宗教的にも重要な石造物のさらなる調査と保存が望まれる。

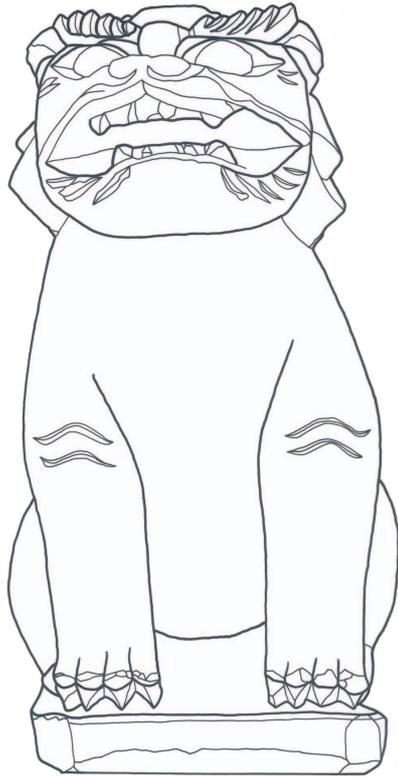
**謝辞：**本稿執筆にあたり、弘前大学の関根達人教授、新潟県胎内市教育委員会の水澤幸一氏、北海道埋蔵文化財センターの田口尚氏、鈴木信氏にご指導・ご教示をいただきました。深く御礼申し上げます。また、日頃よりご協力いただいておりますいしかり砂丘の風資料館の職員の皆様に感謝申し上げます。

### 引用文献

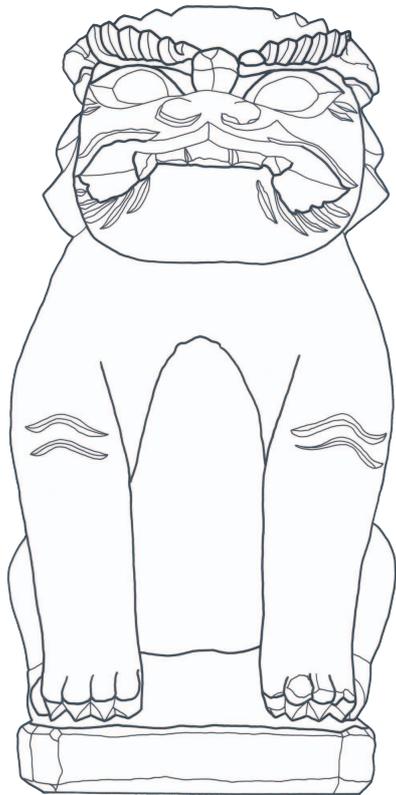
- 石橋孝夫，2006. エスチュアリ（いしかり砂丘の風資料館だより），24：1.
- 三井紀生，2002. 越前笏谷石—北前船による移出・各地の遺品—. 福井新聞社.
- 三井紀生，2012. 中・近世における越前狛犬の特徴と地方進出について. 若越郷土研究，57（1）1-25.
- 水澤幸一，2008. 笏谷石製狛犬について. 新潟考古，19：115-128.
- 長坂一郎，1998. 笏谷石製狛犬の形式変遷. 第11回特別展 石をめぐる歴史と文化—笏谷石とその周辺—. 福井県立博物館
- 関根達人，2013. 近世石造物からみた蝦夷地の内国化. 日本考古学，36：59-84.
- 新村出，1998. 広辞苑第5版. 岩波書店.
- 田中實・石橋孝夫 編，1994. 石狩辨天社創建三百年記念誌 石狩辨天社史. 石狩辨天社創建三百年記念事業実行委員会.

表1. 石狩弁天社狛犬 観察表.

阿像			彩色	墨書	状態	備考
法量 (cm)						
高さ	幅	奥行				
24.6	12.3	19.1	瞳：黒	正面胴体から右前足にかけて「庄内酒田 柏屋久左衛門舟中上乃り九兵工天党船」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たてがみ上部と尾の先端部に擦れたような痕が多数あり、白くなっている</li> <li>・咩像に比べて、細かい欠損が多い</li> <li>・背面胴部から左後ろ足にかけて、彩色が流れたような痕がある</li> <li>・たてがみに彩色の痕が見られる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両前足に施毛のような彫りがある</li> <li>・たてがみ右側に一部黒い彩色がある</li> <li>・あごの部分（右側）に一部墨が見られる</li> <li>・胴：金，口：赤，目：銀，との記録がある（田中・石橋編1994）が、確認できない</li> </ul>
咩像			彩色	墨書	状態	備考
法量 (cm)						
高さ	幅	奥行				
25.1	12.2	20.4	瞳：黒 髭：黒	正面胴体上部に「庄内酒田 柏屋久左衛門舟中上乃り九兵工天党船」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たてがみ上部と尾の先端部に擦れたような痕が多数あり、白くなっている</li> <li>・たてがみに彩色の痕が見られる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両前足に施毛のような彫りがある</li> <li>・前歯中央部と背面左側に一部墨が見られる</li> <li>・胴：金，口：赤，目：銀，との記録がある（田中・石橋編1994）が、確認できない</li> </ul>



阿像



吽像



図2. 石狩弁天社狛犬 実測図.



阿像



咩像

図3. 石狩弁天社狛犬 写真.



胴部正面から右前足（阿像）  
「庄内 酒田 柏屋 久左衛門舟中」



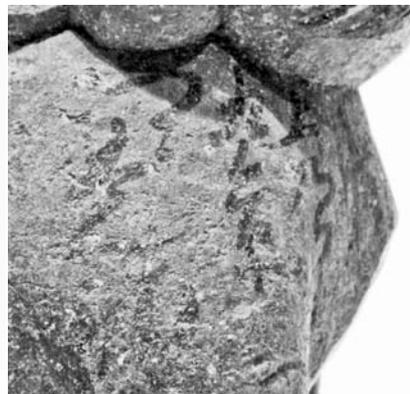
胴部右（阿像）「上乃リ 九兵工 天党船」



胴部左（吽像）「庄内 酒田」



胴部正面（吽像）  
「柏屋 久左衛門 舟中 上乃リ」



胴部右（吽像）「上乃リ 九兵工 天党船」

図4. 墨書文字拡大写真.